

二〇二〇年度 桐朋女子中学校入学試験 (B入試)

筆記試験 (国語)

受 験 番 号

氏 名

【注意】

- 一、問題冊子が配られても、開いてはいけません。
- 二、問題冊子は1ページから17ページまであります。
- 三、「はじめなさい」と言われたら、まず、問題冊子の表紙と解答用紙二枚に、それぞれ受験番号と氏名を書きなさい。
- 四、答えは、すべて解答用紙に書きなさい。
- 五、問題冊子に書きこみをしてかまいません。
- 六、「やめなさい」と言われたら、すぐに筆記用具をおき、解答用紙も問題冊子も表を上にして、机の上におきなさい。
- 七、試験時間は四五分です。

一、次の①～⑩の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。また⑪～⑮の——線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- | | | | | | | | |
|---|-------|--------|-------|--------|------|------|--------|
| ① | イシツブツ | が見つかった | ② | シユウギイン | ギイン | を選ぶ | |
| ③ | 旅先で | ハイク | をよむ | ④ | 雑誌の | ソウカン | 号を買う |
| ⑤ | テアツ | いおもてなし | | ⑥ | 初日の | 出 | をオガむ |
| ⑦ | 名画を | フクセイ | する | ⑧ | コウソウ | 階 | からのながめ |
| ⑨ | 冬は | ニツショウ | 時間が短い | ⑩ | ボウ | グラフ | を書く |
| ⑪ | 身を | 粉 | にして働く | ⑫ | 破竹 | の勢 | いで勝ち進む |
| ⑬ | 高尾山の | 頂 | に立つ | ⑭ | 借りた | お金 | を返済する |
| ⑮ | 一戸 | 建て | 住宅に住む | | | | |

二、次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) ①～⑤の言葉について、ほぼ同じ意味をもつ言葉(類義語)として適切なものを後のア～コの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|-------|---|-------|---|--------|---|-------|---|--------|
| ① | にぎやかだ | ② | 心配 | ③ | うやまう | ④ | すぐに | ⑤ | 育てる |
| ア | しだいに | イ | はぐくむ | ウ | あこがれる | エ | あがめる | オ | たちどころに |
| | カきがかり | キ | はなやかだ | ク | そうぞうしい | ケ | おもいやる | コ | おそれおおい |
- (2) ①～⑤の文中の【 】に入る最も適切な言葉を後のア～エの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。
- ① 美術館の中を【 】見て回ったので、少しつかれてしまった。
- ア くまなく イ もれなく ウ すきまなく エ へだてなく

② 環境問題は人類が「 」を出し合って解決することが求められる。

ア 良心 イ 知能 ウ 良識 エ 知恵

③ 以前から「 」を持っていた時代の文化について調べることにした。

ア 関心 イ 関知 ウ 関係 エ 関連

④ 花子さんががんばってくれた「 」無事に発表会を終えることができた。

ア ため イ おかげ ウ せいで エ 理由で

⑤ 先生がやさしい言葉をかけてくださったので私はいかりを「 」ことができた。

ア うしなう イ とどめる ウ なくす エ おさめる

三、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、字数制限のある問いに答える場合は、『』や「」や「」も一字と数えます。

① テレビをつけたら、旅番組をやっていました。どうやら旅先は北海道で、旅人は男女二人のタレントです。ちょうど、場面は本日の「目玉」の酪農体験。女性のほうが乳搾りに挑戦していました。

次の場面はその乳を子牛にやるところです。母牛の乳首にそっくりな飲み口をつけた缶から、子牛はうれしそうにごくごくと乳を飲んでいました。

「いとおいしい」

ぼんやりとテレビを見ていたそのとき、乳を飲む子牛のそばにいた男性タレントがつぶやいたのです。若いタレントでした。私が驚いてしまったのは、この言葉はもうとっくに死語になっていると勝手に思っていたからです。生きていた！ 私には実はこの言葉が好きなのです。

「いとおいしい」という単語には、自分より小さいものを気にかける、という意味合いがあります。テレビに出ていた

男性タレントも、この言葉を、子牛に使っていたのです。でも、実はこの言葉、本当にそういった、上から目線の言葉でしょうか。

「いとおいしい」という形容詞は、漢字にすると「愛^{いと}おいしい」です。でも、「愛^{いと}してる！」なんて言葉とは少し違います。『大辞泉』を見ると、以下のように出てきます。

1：たまらなくかわいい

2：かわいいそうだ

3：つらい

さらに、こんなコメントがついています。

② この語は『厭^{いと}う』からの派生語だという。つらいと思つて、疎^{いと}ましく思うさま、苦痛で心身を悩^{なや}ますさまを表すところから、自分に対しては、苦しい、つらいの意、他人に対しては気の毒だ、かわいいそうだ、いじらしい、《 a 》、可愛^{かわい}いの意が生じる」

小さな子猫^{こねこ}がお母さんのおっぱいを飲むうとして、小さな手で懸命^{けんめい}にお乳を押し^おているのを見ると、思わず「いとおいしい」という言葉がでてくるでしょう。「たまらなくかわいい」のはもちろんのことですが、こんなに小さいのに、だからがんばったって、生き延びられるかどうか分からないのに、それでも生きようとして必死なのです。その必死の様子が私の心をつかみ、生きられないかもしれないのと気の毒に思い、「かわいいそうだ」と感じ、「いとおいしい」と声になるのです。テレビで男性タレントが言っていた「いとおいしい」も、生まれたばかりの小さな子牛に対してのものでした。

③ ですから、「いとおいしい」は、たしかに、「上から目線」の言葉だと言えます。もう大人で、しかも人間の私。それが小さい子猫や子牛を気の毒がっているのです。

この言葉、テレビにチラッと出てきたので、死語ではないと安心したのですが、それでもふだんの会話ではあまり

耳にすることがありません。もしかしたら半分死語になっているのかもしれない。誰かをいとおしいと思いきの毒だと思いきの心がだんだんとなくなってしまうことなのではないでしょうか。

大人たちが、近ごろの子どもたちには「思いきやり」が欠けていると言ったりします。でも、その一方で大人たちは、子どもたちに自然を経験させようと考えて、夏休みに「魚のつかみ取り大会」なんていうのを平然と企画したりします。自分のほうには何も危険がなく、安全が保証された状態で相手を殺すのだとしたら、それはもう自然とは呼べないでしょう。不自然に、魚を追い回し、殺していくのです。そこには、自然の生き物である魚への思いきやりも何もありません。④ 大人こそ、思いきやりのなさのお手本になっているのです。

思いきやる心は上から目線であったとしても、実はとても大切なのです。これがあれば、自分より弱いものをたとえ食べなくてはいけなくなっても、必要以上に痛めつけて、怖がらせて、そのあげくに殺して食べる、なんていうことはしなくなるでしょう。

でも「いとおしい」という言葉のもっと重要な意味は、三つ目の、自分に対しての「つらい」にあるのではないでしょう。

《 b 》、生きようと夢中になっていく子猫を見てどうして私が「つらい」気分になるのでしょうか。子猫を見て、かわいそうだ、と思うことはあるでしょう。でも、今、私は大きいし、人間です。生きようと努力してもその努力がむくわれるかどうかわからない子猫とは違います。努力すれば、らくらくと生き延びることができるのです。そんな人類の一員である私自身が、自分のことをつらいと感じることはないはずでしょう。

⑤ でも本当にそうでしょうか。今私たちは、しっかりした仲間のうちにあり、「もつともつと」を目指してがんばっておかげで、数年後の食糧さえ備蓄することができています。とはいえ、地上には、飢えて死んでいく子がいます。私たちがだいて、いつ、戦争や天変地異にまきこまれて、どうなってしまうかわかりません。そう思ったとき、子猫

の姿と自分の姿が重なって、「私もこんな子猫と同じなんだ。忘れていたけど、おまえを見て思い出した。私も本当は大変なんだよ」としみじみと、生き物の大変さや危なっかしさを感じたりするのです。

生き物はつらいものなのです。私も忘れてはいましたが生き物でした。生き物って、本当はつらいものなのです！このとき、「いとおしい」は、上から目線の「いとおしい」ではなく、生き物としての自分に目線をもどし、自分も同じ生き物としての仲間だと感じる水平目線の「いとおしい」になるのです。

この「水平目線」は仲間目線、《c》≧兄弟目線といってもいいでしょう。家庭の中の兄弟の間には、兄弟目線の「いとおしい」が知らず知らずのうちに表れているのです。《d》≧いちばん「いとおしい」から遠そうな、兄弟げんかの時にでも、です。

強いお兄ちゃんが殴りかかってくるとしても、それが一瞬本気だったとしても、兄弟ならほとんどの場合そんなにひどい殴り合いにはならないでしょう。それは、小さいものをいとおしむ心があるからだと思うのです。

さらに、兄弟げんかのときには⑥もう一つの「いとおしむ」心が働いているのに気づきませんか。弱いもののほうの心です。弱いものとは年齢の小さい弟のことです。弟も殴られれば抵抗するし、大声で親を呼んだりもします。でも、親が飛んできて、お兄ちゃんがシュンとして手を引くと、それでも弟は、親にお兄ちゃんの悪口を言い続けるでしょう。親の口うるさい小言を、弟だって日ごろから体験しているのです。

強くて怖いお兄ちゃんだけど、あの小言をお兄ちゃんがいままで聞かされてるなんてと、自分だったらとてもがまんできない状況を出して、お兄ちゃんだって、ちょっと年齢が大きただけで自分と同じ仲間なんだ、かわいそうに、と思いやる心が働き始めるでしょう。

同じⅡ境遇で生きているという状況が共通項になっている兄弟だからこそ、小さいものである弟が年長者である兄を「思いやる」心が働くし、仲間目線で兄を「いとおしむ」気持ちも湧いてくるのです。

（左近司祥子『なぜ猫は幸せに見えるの？ ―子どものための哲学のおはなし』講談社）

* 『大辞泉』—— 国語辞典のひとつ。

* 派生語—— ある言葉から新しく分かれて生み出された言葉のこと。

問い一、本文中の《 》 a s d に入る言葉として最も適切なものを次の中からそれぞれ選び記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度用いてはいけません。

ア たとえば イ しかも ウ さらに エ でも オ もしくは カ ところで

問い二、——線部 I 「疎ましく思う」・II 「境遇」の意味として最も適切なものを次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

I 疎ましく思う

ア 痛くてたまらないと思う
イ めんどうでたまらないと思う
ウ いやでたまらないと思う
エ 悲しくてたまらないと思う

II 境遇

ア 変えられない生き方
イ さけられない運命
ウ 置かれている立場
エ 決められた生い立ち

問い三、——線部①「テレビをつけたら、旅番組をやっていました」とありますが、筆者はここで「旅番組」の例を

どのようなことを示すために用いていますか。次の中から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 北海道の酪農体験もできる豊かな自然がみりよく的であること

イ 「いとおしい」という言葉を使った若いタレントに感心したこと

ウ 飲み口の工夫くふうによって子牛がうれしそうに乳を飲むのが意外だったこと

エ 「いとおしい」という筆者の大好きな言葉が死語ではなかったこと

問い四、——線部②「この語は『厭う』からの派生語だという」とあるように「いとおいしい」という言葉は「厭う」という動詞から派生した語です。このように形容詞が動詞から派生した例に「やさしい」があります。次は、これについて話題にした光男さんと純子さんの会話です。会話中にある【1】1〜7には、ア「自分」・イ「相手」のいずれかが入ります。それぞれに適切なものを選び、記号で答えなさい。

光男：「いとおいしい」が、「いとう（厭う）」という動詞から生まれたとは意外だったなあ。「いとう」は「いやがる」とか「きらう」という意味なのに、「いとおいしい」になると、「かわいい」という全く異なった意味になってしまっているのがおもしろいね。もともと【1】1【1】が「つらい」、「だから」「いやだ」という意味だった「いとう」が、【2】【2】が「つらい」、それが「気の毒」という見方によって、つらそうにしている【3】【3】を見て、かわいそうだ、守ってあげたいなあ、という思いつから、「いとおいしい」という言葉に「かわいい」という意味が生まれたのだね。言葉の意味にはストーリーがあるのだね！

純子：そうね。けれども、そういうもとの動詞の意味と、今私たちが使う意味とが全く異なっている形容詞は他にもあるのよ。たとえば、「やさしい」なんて形容詞もそうね。この形容詞はもともと、「瘦す（やせる）」という動詞から派生しているのよ。

光男：へえ、そうなんだ。「やさしい」っていう形容詞が、どうして「やせる」なんて動詞と結びつくのだろう。

純子：そうね。もともと【4】【4】が「やせる」という意味だったのが、【5】【5】が「やせる」くらい【6】【6】を気づかうという意味に用いられて、そのような人のことを思いやりがある人だと言うようになったの。だから現在のよな意味の形容詞として使われるのよ。

光男：どちらの言葉にも、【7】【7】に対する思いが表れているのだね。

問い五、——線部③「ですから、『いとおいしい』は、たしかに、『上から目線』の言葉だと言えます」とありますが、それはなぜですか。四十字以内で説明しなさい。

問六、——線部④「大人こそ、思いやりのなさのお手本になっているのです」とありますが、どういう点で「思いやりのなさのお手本になっている」と筆者は述べていますか。次の中から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 子どもたちの意見を全く聞かずに魚のつかみ取りをさせる点

イ 子どもたちの安全を確かめずに魚のつかみ取りをさせる点

ウ 不自然な環境を作って一方的な状態で魚のつかみ取りをさせる点

エ 環境破壊につながることを考えずに魚のつかみ取りをさせる点

問七、——線部⑤「でも本当にそうでしょうか」とありますが、この時の筆者の考えとして最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 人間である私も生きていくことがつらい。

イ 人間である私も子どものつらさを感じられる。

ウ 人間である私も子猫と同じ生き物である。

エ 人間である私も努力すれば楽に生きられる。

問八、——線部⑥「もう一つの『いとおしむ』心」とありますが、それはどのような心のことか、本文中から二十文字でぬき出して答えなさい。

問九、——線部「『いとおしい』』という言葉のもつと重要な意味は、三つ目の、自分に対しての『つらい』にあるのではないだろうか」と筆者は述べていますが、それはなぜですか。「目線」という言葉を必ず一回以上用いて、八十字以内で答えなさい。

四、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、字数制限のある問いに答える場合は、『』や「」や「。」「も一字と数えます。

小学六年生の和樹は、自分の感情をおさえられずにクラスでたびたび騒動をおこしてしまう。今日も、ふとした友達とのいさかいから、教卓を蹴飛ばして大騒ぎを起こしてしまった。担任の先生から、お昼の時間に給食を持ってスクールカウンセラーの真鍋先生の所へ行くように言われた和樹は、しぶしぶ真鍋先生のもとへ向かった。本文は、和樹と真鍋先生、二人のやりとりの場面である。

教卓のこと……母ちゃんに、なんていわれるだろう。

今度こそあきれて、見捨てられるかもしれない。

そんな思いが頭の中をぐるぐると駆けめぐり、今までに起こしたほかの事件まで思い出した。

ふざけてかけられたプロレス技に、マジ切れしてつかみかかったことがある。書道で墨汁が跳ねたときは、謝らうとしたのに相手が怒り出したから、ついカツとなってあたりが墨汁まみれになった。

蹴飛ばした椅子が女子にぶつかって、泣かれたこともある。

そのたびに、授業は中断するし、「またかよ」っていう視線にさらされた。

オレは、ダメな人間だ……。

ときどき、自分が嫌になり、**I** 自暴自棄になる。

そんなとき、オレの中にいる化けものが喜んで、大暴れしはじめる。それはとてつもなく凶暴で、部屋の壁に穴をあけたこともあった。そのうち、とりかえしのつかないことをしてしまうんじゃないかという恐怖に襲われる。

今も、そいつは成長し続けて、いつかオレの体をのっとり、支配しようとたくらんでいるにちがいない。そう思う

と、自分が自分でなくなるような、不安でたまらない気持ちになった。

「そうだね。あなたの場合とわたしの場合は違う。みんな、それぞれ違うんだよねえ。あ、ちょっと待ってて」

先生は、ノートと鉛筆を持ってきて、給食のトレーを脇に押しやった。牛乳瓶がぐらっと揺れて、《 a 》するけれど、先生はまったく気にしない。

広げたノートには、汚い字で意味不明な文字や記号が、あちこちに書かれている。たぶん、それを見ても先生にか理解できないだろう。

そんな雑然としたノートに、真鍋先生は鉛筆を走らせた。

「一見マイナスに思えることも、見方を変えれば、まったく違うように考えることもできるんだよ。例えば……」
先生が、「だらしがない」「II おおらか」という文字を書く。

「わたしは子どものころ、しかられてばかりいたの。片づけられないし、忘れものも多くて、ノートも汚くてね……。自分ではちゃんと思いたいと思うのにできなくて、だらしがないっていわれるのが、つらかったなあ」

「だらしがない」という文字を、鉛筆でぐるぐると囲む。

「でも、そんなとき、一人の先生がいつてくれたの。きっちりしている人は、他人に緊張を与えてしまうけれど、あなたはおおらかで、人を安心させられる人よって」

そして、「おおらか」という文字に矢印を書き、トンツと鉛筆でさす。

同じ行為が、「だらしがない」とも、「おおらか」ともとれるなんて……。

「そのひと言が、魔法のようにわたしを救ってくれた。自分はダメな人間なんかじゃないんだって思えたの。あなたもそうじゃない？ そんなことで悩んでない？」

① じっと見つめられて、ドキッとす。

「悪いところばかりに注目してたら、本当にそんな人間になってしまふ。それって、すごく怖いことだよ」

理屈は、わかる。

言葉は魔法だ。

オレも……みんなから乱暴ものだといわれるたびに、暗示にかけられたように心が荒れる。自分は乱暴ものかもしれない……乱暴ものなのだ、打ちのめされる。いじめて、やけになって。

「あなたにも、いいところはたくさんある。必ずある。それをいっしょに見つけようよ」

② 困った子じゃなくて、困っている子……。そういう意味か。

それは、わかった。でも……。

「オレには、いいところなんてないよ」

いじけたように、ふてくされる。

「そんなことない！」

真鍋先生が身を乗り出して、また倒れそうになった牛乳瓶を、和樹はあわててつかんだ。

先生が、《 b 》座り込む。

「先生のあの言葉がなかったら、わたし、学校に行かなくなってたかもしれない。ほんのひと言が、人生を助けてくれることもある。わたしもそんな先生になれたらと思ったのに……」

「あくあ」っていいながら、机に突っ伏した。

おいおい、子どもの前で落ち込むなよ。ホント、この先生って……。

「オレだって……」③ 魔法の言葉、聞きたいよ 《 c 》いうと、真鍋先生は「でしょ!?!」と顔を上げた。復活が早い。

「あなたがどれほどつらかったか、お母さんから聞いてるよ」

「母ちゃんから？」

初耳だった。何か事件を起こすたびに、学校に呼び出されているのは知っているけれど、真鍋先生と話したことがあるなんて聞いてない。

「あの子は、本当は素直すなおで優しいんだって、いったよ。落ち着きがなくて、
III 衝動的しょうどうてきなところもあるけれど、それは生まれつきのもだから、あの子のせいじゃないんですって」

オレの……せいじゃない？

それ、違うだろ。オレがやったんだから、オレのせいだろ。

④ 涙なみだが、ぼろぼろとこぼれて、トンカツの上に落ちた。すっかり冷めたトンカツは、油がしみて、べちゃっとなっている。

「わたしは、自分のためにスクールカウンセラーをしているんだと思うの。誰かの悪いところじゃなく、いいところを見つけて、できる人になりたくて」

いい大人が、子どもの前で、そんなに開けっぴろげになるなよといいたくなる。でも、そんな人になりたいという、真鍋先生の気持ちかわかる気がした。

オレだって、なりたいたいよ。そんな人に。

「オレにも、あるのかな。いいところ……」

小さな、希望のようなものが芽生めえた。

「当たり前じゃない。お母さんもいってたでしょう？ あなたは素直で優しいって」

母ちゃん……。

喉のどが『d』鳴って、つまっていた言葉があふれだした。

「ズボンがやぶれていたことより……母ちゃんをバカにされたことが、悔くしかった。オレのせいで、母ちゃんを悪くいわれるのが、嫌だった……」

涙といっしょに、自分でも気づかなかった思いがこぼれでる。

「そうだったのか。うん、やっぱりあなたは優しいよ」

真鍋先生の手が、和樹の頭にぼんっとのった。

「あなたは乱暴ものなんかじゃない。」「A」。でも、暴力はいけない。それじゃあ何も解決しないって、あなたにもわかっていいるはずでしょう？」

和樹は、素直にうなずいた。

「わかるけど、オレの中には化けものがいて、勝手に暴れ出すんだ」

これも、言い訳だろうか。

「化けもの……か」

先生は繰り返した。

「ねえ、人間の体は完璧かんぺきにコントロールできるって思う？」

「え……。うーん」

首をかしげる。完璧かんぺきについていわれると、自信がない。

「例えばいびきとか、貧乏びんぼうゆすりって、無意識にやるでしょう？ 人は、体も心もコントロールしているようで、実

際はできないところもあるのよ」

いびきや、貧乏ゆすり……。

たしかに、無意識にしている。

オレもたまに、貧乏ゆすりを母ちゃんに注意されるなあと思いつ出した。人にいわれて初めて気づくけれど、それまでぜんぜん意識していない。

「オレの場合も、それといっしょ？ 治らないの？」

だとしたら、絶望的だ。

「治るとか、治らないとか、そういう問題じゃないの。」^⑤ 化けものは、あなたの一部なんだから」

「じゃあ、やっぱりダメじゃん！」

投げやりな気持ちになって、牛乳を飲み干した。空腹の胃が、一気にふくらむ。

「そう、難しい。だから、いっしょに考えていこう」

いっしょに……。

なんだか気の長さうな話だし、無理なんじゃないかって気もする。でも、今まで一人で悩んでいたことを、いっしょに考えてくれる人がいるって思うだけで心強かった。

先生は時計を見ると、「わ、大変！ 次の予定があったっけ」といって、あわててトレイを持って立ち上がった。「牛乳、牛乳！」と、最後のひと口をぐいっと飲み込み、背中を向ける。

「あ、あのっ、その……」

和樹が呼び止めると、先生は振り向きざまに、「e ≧ 笑った。

「教卓の件は、わたしのほうから、うまくいっておいてあげるから。また、いつでもいらっしゃい」
真鍋先生は、あわただしく出ていった。

残された和樹は、給食を見下ろした。

すっかり食欲はなくなっているし、時計を見ると、食べる時間もなかった。

まあ、いっか……。

^⑥ いろんな話を聞いて、なんだかお腹もいっばいだった。

(工藤純子『となりの火星人』講談社)

問い一、——線部 I「自暴自棄」・II「おおらか」・III「衝動的な」の言葉の意味として最も適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

I 自暴自棄

ア 自分のことがいやになり周りに対して攻撃的こうげきてきな態度をとること
イ 全てにいいかげんな気持ちが出てなまけようとする態度をとること
ウ 何もかもがわからなくなり急にとんでもない態度をとること
エ どうでもいいという気持ちになり投げやりな態度をとること

II おおらか

ア 細かいことにこだわらないさま
イ 何でも受け止めるよゆうがあるさま
ウ 広く物事をとらえられるさま
エ 態度が大きく自信のあるさま

III 衝動的な

ア なぜするのかわからずに発作的ほっさてきに行動するような
イ 苦しさを何とかがまんして努力していくような
ウ 体当たりでぶつかっていく勢いを持つような
エ 思い立ったら居ても立ってもいられないような

問い二、本文中の《 a s e 》に入る言葉として最も適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度用いてはいけません。

ア にやっと イ ぐうっと ウ はきはきと エ ひやりと オ ぼそっと
カ にやにやと キ すとんと

問い三、——線部①「じつと見つめられて、ドキッとする」とありますが、この時の和樹の気持ちとして最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分がダメな人間ではないと言われたことをはずかしく思う気持ち
- イ 自分がダメな人間だと考えていることを言い当てられて驚く気持ち
- ウ きらわれ者の自分に優しくしてくれる先生を前にして緊張する気持ち
- エ 母以外の大人の女性に見つめられたことに照れてうれしく思う気持ち

問い四、——線部②「困った子じゃなくて、困っている子……。そういう意味か。」とありますが、これは本文より前の場面で、真鍋先生が和樹に「あなたは、困った子なんかじゃない。困っている子だよ」と言ったことを受けています。和樹はこの言葉をどのように理解したと考えられますか。説明した次の文の「1・2」に当てはまる適切な言葉を十字以上二十字以内で答えなさい。

自分は「 1 「子ではなくて、」 2 「子だと先生は言いたかったのだということ。」

問い五、——線部③「魔法の言葉」とありますが、どのような言葉のことですか。この時の和樹の気持ちに一番近いと考えられるものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 見方によってはちがう意味に受け取られるような言葉
- イ 悩んでいる人を必ず幸せにしてくれるような言葉
- ウ 人の心をとらえて絶対に離さないような言葉
- エ 人の心をうごかし自信を持たせるような言葉

問六、——線部④「涙が、ぼろぼろとこぼれて、トンカツの上に落ちた」とありますが、どうして涙がこぼれたと
考えられるか、次の中から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 母が自分のことを理解してくれていなかったと感じたから。

イ 母が自分のことを認めてくれていたことを知ったから。

ウ 母が自分のことをつきはなしてしまったのだと感じたから。

エ 母が自分のことをほめてくれていたことを知ったから。

問七、本文中の「A」に当てはまる真鍋先生の言葉として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 優しく、力持ちなのよ

イ 優しく、お人よしのよ

ウ 優しく、正義感が強いなのよ

問八、——線部⑤「化けものは、あなたの一部」とありますが、それはどういうことですか。本文の内容をふまえて五十文字以内で説明しなさい。

問九、——線部⑥「いろんな話を聞いて、なんだかお腹もいっぱいだった」とありますが、この時の和樹の気持ち
はどのようなものか、次の中から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 真鍋先生の子供っぽさを目の当たりにして、先生を身近に感じ、いっしょにいられたことをうれしく思った。

イ 真鍋先生の話を聞いて、自分の悩みはだれもが持っているのとわかり、くよくよすることはないと感じた。

ウ 真鍋先生や母親に悪く思われていないことがわかり、自分は一人ではないと安心し、ありがたく思った。

エ 真鍋先生と話することで、さまざまなことを知って、気持ちが落ち着くとともに胸がいっぱいになった。

問十、——線部「見マイナスに思えることも、見方を変えれば、全く違うように考えることもできるんだよ」と
ありますが、見方によってプラスにもマイナスにもとらえられることの具体例を、一つ書きなさい。

